

Title	K-RIP(九州地域環境・リサイクル産業プラザ)の発想と活動
Author(s)	川崎, 順一
Citation	年次学術大会講演要旨集, 17: 196-198
Issue Date	2002-10-24
Type	Presentation
Text version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10119/5924">http://hdl.handle.net/10119/5924</a>
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	シンポジウム

## シンポジウム

### K-RIP（九州地域環境・リサイクル産業プラザ）の発想と活動

川崎 順一（新日本製鐵株式会社八幡製鐵所総務部開発企画グループ部長）

#### 1. はじめに（現状認識）：

- (1) 大きな社会環境の変化～21世紀のキーワード～
  - ・グローバル化・IT化・少子高齢化・地球環境問題・循環型社会・聖域なき合従連衡・大競争時代・規制緩和・産業再生・都市再生・教育問題・企業倫理 — — — 等)
- (2) 企業の生き残り作戦（リストラクチャリング） — <スピード> —
- (3) 真の産学官（民）連携が必要
- (4) 部分最適（個）から全体最適（地域）の視点を強化

#### 2. K-RIP発足の経緯：

- (1) 九州地域の動向（ポテンシャル）
  - ① H6年、旧九州通商産業局主導で産学官民での環境調和型経済社会研究会発足（座長：花嶋元福大教授）～リサイクル促進協議会へ発展継承（H9～H14）し環境ビジネスに関する検討を推進。
  - ② 過去の公害克服（自治体・企業・市民）の歴史、蓄積された技術と人材、各種大学・公設研究機関の存在、市民との信頼関係等。
  - ③ 全国16ヶ所のエコタウン地域の内、3ヶ所が当地域に存在。  
北九州市（H9.7）大牟田市（H10.7）地域指定済。水俣市検討中（H13.2地域指定）。
- (2) 環境ビジネス展開上の優位性
  - ① 素材系資源循環の中核となる素材産業の集積
  - ② エネルギー関連産業の集積
  - ③ 有機系資源循環に関わる産業の立地
  - ④ 大学、研究機関のリサイクル・環境技術開発機能集積
  - ⑤ 市場の存在（リサイクル率の低さ・焼酎粕などの市場特性等）
  - ⑥ 地域支援・産業立地基盤の存在（遊休地・港湾・物流拠点等）
  - ⑦ アジアとの近接性（環境技術協力）・歴史・文化的特性、等々。以上の諸条件から、九州地域を循環型社会の実証的モデルとすべくH11.11にK-RIPを設立。

#### 3. K-RIPの活動概要：

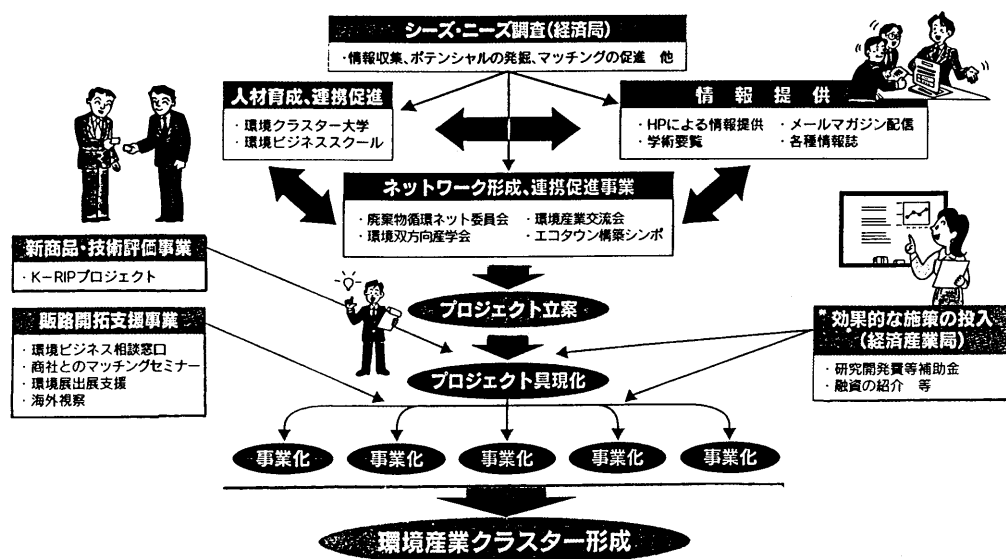
- (1) K-RIPとは「九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ」  
（Kyushu Recycle and Environmental Industry Plaza）のことを言う。

- ①環境リサイクルに関わる産学官の関係者の横断的組織として設立。
- ②環境ビジネスの育成・振興を通じて九州地域を循環型社会の実証的モデルとし、新産業の創出と地域の活性化を図るもの。
- ③入会制限なし。会費：法人（個人）5万円（5千円）／1口。現在の会員は、法人（企業・団体）272社、個人（大学含む）147人、特別会員（自治体）22でトータル441会員。（H14.7/E現在）

(2) 主な事業内容 ～四つの部会活動～

- ①調査・情報・啓発部会（廃棄物循環ネットワーク）
- ②交流部会（環境ビジネス相談窓口・環境産業交流会）
- ③学術部会（環境ビジネススクール・環境クラスター大学）
- ④プロジェクト部会（戦略プロジェクトの採択支援）

産業クラスター形成に係るK-RIP事業の流れ



(3) 具体的な成果 (H11.11～H14.3抜粋)

- ①26事業を実施し約7300人の参加。
- ②H13年度から経済産業省の「産業クラスター計画」（19プロジェクトの1つ）として選定。～上記のK-RIP事業フロー参照～
- ③H13年4月、（独）プレーメンイニシアティブ2001で「K-RIP活動事例」発表。
- ④各種活動を通じて、人、情報、知識との出会いにより次世代の人材育成やネットワークの形成および新規事業会社の設立等を図る。

4. 課題と今後の展開について：

(1) 真の産学連携による早期産業化：

- ①大学のシーズ技術と民間のニーズのマッチングの徹底実践
- ②コーペティション（競争と協調）の実践により、技術開発のスピードアップと早期産業化を図る。（企業×企業、大学×大学、企業×大学）
- ③コーディネーターの登録・処遇と適材適所の派遣（スピード重視でネット上での対応等）
- ④ベンチャー系企業への資金・営業面等からの支援体制の整備。
- ⑤域内のバランスのとれた環境産業ゾーンの形成とゾーン間ネットワークの形成

(2) 人材育成について

- ①企業の経営層自ら循環型社会についての基本認識の醸成と当該分野の人材育成が急務であることの方針提示。
- ②企業単位（部分）よりも地域単位（全体）のビジネス企画が必要であり、中立・公平に自治体の産業政策とも連動できる人材の育成。

5. おわりに： ～環境ビジネスの実証的モデル地域を目指して～

- (1) H11年5月、旧九州通商産業局の会議室にて、「環境問題解決のための議論を実行に移そう！！」、「走りながら考えよう！」、「俺が（点）ではなく地域（面）としての活動を強化しよう！」、「大学も民間のためになるような技術開発をしよう！」、「中小企業にとって、大学は敷居が高いのではないか！」等々の議論の中で、K-RIPの骨格を作成。
- (2) 第一ステージとしてはまずは合格点と言える。しかし、九州地域での「環境の産業化」や「産業の環境化」はまだまだである。
- (3) 21世紀は「個性の時代」とも言われ、九州地域の個性は「ものづくり・環境・アジア」がキーワードだとすれば、ITを活用し九州の各地域の基幹産業に、環境保全型の、経営理念、製造原理、行動規範を吹き込みその徹底実践が求められている。そして、それはK-RIPが提唱するような各主体の同志的連携の中から得られるものとする。